

碑法帖拓本の題記の書① 六舟達受手拓青銅器器形拓帖

図版④「六舟達受の肖像」



今回から数回にわたり、書の古典碑帖拓本を鑑賞しよう。特にこうした書物の表紙に付せられた「題簽」(だいせん・書物の表紙に書名を記した細長い紙片)や拓本文の前に書かれた「題字」、また巻末に書かれた「跋文」(書物を閲覧した人が書いたあとがき)などに目を向けながら鑑賞を進めよう。碑法帖に付せられた「題簽」「跋文」などの題記は、名家の手によるものが多く、書物を開きながら鑑賞する小さな書の展覧会の趣を呈している。

第一回は、紀元前の文字のある青銅器の器形をあたかも写生するようにして拓した書物を取り上げよう。手拓した人物は、六舟達受(1791~1858?)である(図版④肖像画)。金石文や書画にも造詣が深く、特に青銅

図版③「右・馬国権題簽」「左・呉汝庚題簽」



器の器形を立体的に拓することに優れ、著名な人物である。また天下の名蹟とされる「千金帖(懷素の草書千字文・現在台北故宮博物院蔵)」を、その当時所蔵していたことでも有名である。

この帖の題簽は、二種あり、図版③の左は六舟達受と同時代の呉汝庚の筆になる旧来のものである。右は、十数年前に西泠印社の理事であり、古文字学者・篆刻家の馬国権(1931~2002)先生の手によるものである。共に篆書で「商周兩漢彝器(全) 図拓本」とあるが、馬国権先生は、先人の作を意識しながらや書風を変えられ、独自の趣を示している。また手拓者・六舟達受も巻頭にやや大きめの篆書で「新安程氏侃齋堂所藏彝器図經拓本」の題字(図版①)を書いている。重厚な筆遣いである。その左端には、程氏所蔵の青銅器を拓したことの経緯を小さな行書体で記している。青銅器の器形・銘文拓(図版②)も見事であるが、この帖をその当時閲覧した人物が、書き記した絵画や題字も見えがある。その他に偉大な金石家・陳介祺を始めとして数人の名家の書画が付されているが、誌面の都合で割愛した。

(伊藤滋記)

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院 平成の群像 (2013)



2013・2 書道芸術院展

毛筆文字が印刷文字に変わり、実用書の世界から姿を消して久しい。読みづらくなつて書道が芸術として認められるようになった。

規範芸術たる漢字、仮名は、制作時に誤字は許されないが、鑑賞者の殆どが訛文なしでは完全には読めない。お陰で造形芸術として線質、動き、造形に目が向いて来た。音楽のように動きを定着させた書道独特の造形が徐々に理解され始め、読めることより作品そのものの芸術性に注目が集まり始めた。漢字、仮名、大字書、現代詩文書とともに、少し読みづらても造形を重視し、受け入れられ始めて来ている。現

映画「書道ガールズ!!私たちの甲子園」からパフォーマンス書道に注目が集まり、動きとしての書道が見直され、「臨書」「九成宮」などの言葉が平気で出てくる高校書道部を舞台にした人気コメディック「とめはねっ！」が幅広く支持され、マンガ「書の歴史」が出版され、隔月誌「書体検定」が発刊されるなど、歴史、古代文字、字源、各書体等の理論も注目されてきている。

書道が芸術として見直され始めた今には、その時代の人の求めた理想的価値観が息づいている。温故知新／賢人の求めた美意識の追体験（臨書）を通じて、人の素晴らしさに感動し、書を心から愛好するこれから書道文化の牽引者を育成し、読める読みない、上手下手を越えて、書道作品の底に生きづく人の生き方、品格、精神性に感動できる人材をも育てたいと思っている。



竹本龍汀

こそ、書道の未来のため、読み易い文字の美しさも含め、少しでも多くの人に書の悦びを伝え、書道人口を増やし、底辺を広げる大切さを感じている。

現在、午前中は高校生、午後は老人介護施設でデイサービスで書道を教えている。高校生には毛筆、硬筆検定（实用書）で活字と手書き文字との違

代アートたる前衛も読めないアレルギーから解放されつつある。展覧会芸術としての書道の未来は洋々と広がり始めている。

映画「書道ガールズ!!私たちの甲子園」からパフォーマンス書道に注目が集まり、動きとしての書道が見直され、「臨書」「九成宮」などの言葉が平気で出てくる高校書道部を舞台にした人気コメディック「とめはねっ！」が幅広く支持され、マンガ「書の歴史」が出版され、隔月誌「書体検定」が発刊されるなど、歴史、古代文字、字源、各書体等の理論も注目されてきている。

書道が芸術として見直され始めた今には、その時代の人の求めた理想的価値観が息づいている。温故知新／賢人の求めた美意識の追体験（臨書）を通じて、人の素晴らしさに感動し、書を心から愛好するこれから書道文化の牽引者を育成し、読める読みない、上手下手を越えて、書道作品の底に生きづく人の生き方、品格、精神性に感動できる人材をも育てたいと思っている。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

財団道芸術院評議員会・理事会開催

平成25年度事業計画、予算案などを審議する定例評議員会および理事会が3月17日（日）上野精養軒で開催され、午前10時30分より評議員会、午後1時より総局・支局長会議、14時30分より理事会が行われた。本年4月1日より公益財団法人への移行が確定したのを受けて評議員会は今回が最後となり、4月からは新しい評議員会に衣替えする。理事会は任期途中でありそのまま継続することになっている。

平成25年度事業計画・予算案は現行財団法人体制で検討され、4月から発足の公益財団法人として改めて臨時理事会を開催（4月2日を予定）、諸案件を再度審議の上決定する。

事業計画はほぼ24年度と同じ内容で、創立65周年記念事業が終了して通常年度計画に戻る。

* 主な事業計画

- ・ 公益事業1 書に関する展覧会開催
第67回書道芸術院展開催
併催 第65回全国学生書道展開催
書道芸術院秋季展開催
- ・ 公益事業2 書道芸術・同学生版競書審査
講習会、講演会の開催

平成25年度単位認定講習会開催
創立記念日講演会開催
海外展開への支援（ウイーン展）
収益事業 書に関する出版物の刊行

- ・ 「書道芸術」「書道芸術学生版」発行
- ・ その他事業 総支局活動支援
- ・ 収益事業 書に関する出版物の刊行

- ・ 「書道芸術」「書道芸術学生版」発行
- ・ その他事業 総支局活動支援
- ・ 収益事業 書に関する出版物の刊行

* 予算案は事業計画に基づき立案

・ 特記事項 東日本大震災被災者への支援（年会費、一般公募出品料の減免）は24年度をもって終了することとした。（別記院報・本院ホームページを参照いただきたい。）

公益財団法人正式認可

前記の通り内閣府主管「公益財団法人書道芸術院」として3月21日、内閣府大臣官房法人行政担当室より認定通知書が本院に交付された。これで正式認定をいたいたことになった。今後法務局への登記手続きを行い、平成25年4月1日「公益財団法人書道芸術院」として新たなスタートを切ることとなつた。

これまで担当の上柳佳規、山口仙草両氏のご努力ご尽力、会計面のサポートをしていただいた青木法律会計事務所に深甚の感謝を申し上げたい。

発足に関連して臨時理事会が4月2日開催され、事業計画・予算案、役員人事などを公益財団法人として審議の上、決議する。

5月11日 理事会（24年度事業・決

算・昇格人事関係・その他)
3月3日（月）評議員会（24年度事業・決算・昇格人事関係・その他）

新たに選任されたメンバーで行う。
公益財団法人として最初の評議員会を開催されることになっており、本年3月別に役員作品巡回展が全国10会場で開催されることになっている。

静岡・神奈川を皮切りに始動

65回展を記念して通例の地方展とは別に役員作品巡回展が全国10会場で開催されることになっており、本年3月26日から4月3日まで静岡県立美術館、4月6日から14日まで横浜そごう美術館で、それぞれ関係地区的審査会員・会員なども出品している。以下

兵庫（5月17日～19日、城崎大会議館）
群馬（8月2日～7日、高崎シティギャラリー）
青森（9月21日～29日、青森県美）
長崎（10月8日～13日、長崎県美）
帯広（11月21日～26日、帯広市民G）
愛知（1月18日～26日、春日井市文化）
高松（1月28日～2月2日、高松市美）
岡山（3月18日～23日、天神山文化）

として新たなスタートを切ることとなつた。

これまで担当の上柳佳規、山口仙草両氏のご努力ご尽力、会計面のサポートをしていただいた青木法律会計事務所に深甚の感謝を申し上げたい。

発足に関連して臨時理事会が4月2日開催され、事業計画・予算案、役員

人事などを公益財団法人として審議の上、決議する。

主な内容

書道講演会 11月28日国立新美術館にて島谷弘幸東博副館長講演

・ 24年度助け合い募金 連絡維持団体・賛助団体・顧問・理事・参与・評議員より総額3,885,000円。日赤、中国大使館へ

・ 日中正常化40周年記念「日中代表作家展」中国展は延期されているが本年10月開催に向け再始動する予定。日中文化交流協会と連携。

・ 書写書道教育の今後を考える運動推進。全国書美術振興会と全日本書道連盟が発起人となって、毎日書道会、読売書法会、産経書道会ほか書道出版関係用具商協会などに呼びかけ、「毛筆書道」の国語科からの独立などを国会、文部科学省、中央教育審議会などへ積極的な要請、陳情活動を進めることとなり、その準備会に連盟として参加する。

・ 助成事業の推進

県単位 市町村単位の書道講演会、講習会などへの助成事業をもつと積極的に活用してほしい。詳細は連盟会報、ホームページにて。

・ 連盟会員への加盟を進めたい。本院より要請文を送付（審候以上）ご協力を願いしたい。

公益社団法人全日本書道連盟理事会

本院関係出品者

・ 最高顧問 恩地春洋

・ 理事 辻元大雲

・ 総務 大野祥雲

・ 評議員 小竹石雲、下谷洋子、千葉蒼玄

第149回公益社団法人全日本書道連盟

5月11日 理事会（24年度事業・決

理事会が3月14日（木）、上野精養軒にて開催され平成25年度事業計画、予算案審議などが行われた。

新たに選任されたメンバーで行う。

漢字（一）

佐藤菜扇



佐藤菜扇書

数年前から対聯の作品を書いていま
す。対聯の形式に魅力を感じ、新しい
何かが表現出来ればと考えていま
す。

今は改めて対聯の歴史、作品形式等
についてまとめていきたいと思ひます。

対聯は別に「楹聯」「楹帖」「対子」
と呼ばれ「上聯」「下聯」によって一
組（一対）となり、聯句も字句対称、
字数相同比などの規矩をもつた一種独特
の文字様式で中国の建築様式と密接な
関係を持って発展しました。

初めは災厄除けに二神を画いた一対
の桃符が次第に画から文字を書いたも

のに変化し対聯へと発展したそうです。
現在行われている対聯がいつ頃起こっ
たのかははっきりとした説はなく、一

般的には五代十国の後蜀・後
主（孟昶）が辛寅遜に「新年
納餘慶」「嘉節号長春」の対

句を書かせたのが初めとされ
ます。作品の揮毫形式として
宋代に普及はじめ、明代以
後に一般化し、清代になって
盛ん行したそうです。

初めはこの句を書いてみま
した。

現代詩文書（一）

大平邑峰

21世紀の書

—私　の　主　張—

私が自ら進んで書を学ぶよう
になったのは、小学校の高学年
ぐらいだったでしょうか。上野
県の児童書道展、地元の新聞紙
上展などに入賞や写真掲載を目
指して出展していたのが思い出
されます。中学生の頃には、用
具も気になるようになり、文具
屋で変わった紙（パルプ紙でな
い手漉き風のもの）や唐筆があつ
たりすると買い求め、善し悪し
もよくわからない勝手に使つ
ていた記憶があります。そんな
自分に師は行書や仮名、細かな
筆遣い、調和体、そして古典の
手ほどきまで中学生としては少し難し
いと思われるような指導をしてくださっ
たように記憶しています。

高校生になると芸展や毎日展、倉敷
市展など大人の展覧会へ出品するよう
になりました。私の詩文書の世界の始
まりでした。日々の勉強は、競書出品
と古典の学習でした。上田桑鳩先生の
著作本などをテキストにして臨書につ
いて教わりましたが、この頃の臨書觀
は、今も自分のベースあると思います。
手が腱鞘炎になられるほど稽古をされ、
「雁塔聖教序にはこの筆がよい」と師
が一本の筆を下さったのは忘れること
ができません。多感な時期に書の魅力
に触ることができ幸せでした。



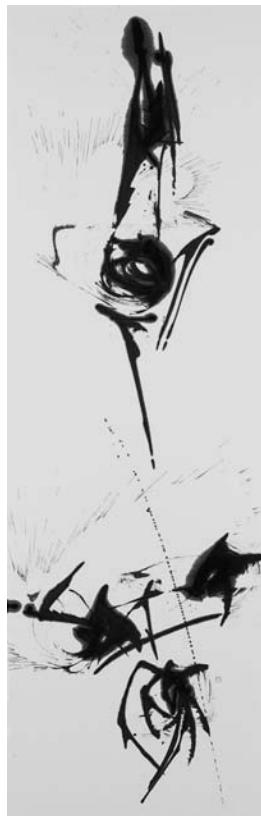
中学3年時（昭48）の詩文書作品

大平邑峰書

峰
雲
賞



前衛書部
工藤 永翠



工藤
永翠



「星の瞬き」

千田
春月

第66回
書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院大賞



現代詩文書部
千田 春月

空海の言葉に「目を鎧ぎ、心を鎧か
れんことを」というのがあり、目でよ
く観、心を燃やしてそのものに接する
こと、さめた気持ちからは何も生まれ
てこない：これは前衛を勉強始めた
頃に、師の千葉蒼玄先生からの添削の
返信に書かれてあり、ずっと頭の中に

残っていたものです。長年作品制作の
際、行き詰った時に、ふと過る一節
になりました。

今回の作品は、極寒の北国の冬の夜
空、そこに瞬くオーリオンの星座を見て
緊張感のある線を書いてみたい…その
一心で取り組みました。しかし、思う
ような線が引けず、もがき苦しんでい
た時に師の言葉が過りました。

私にとっての峰雲賞、それは喜び以
上に重みのあるものです。今後も気を
引き締め、更なる精進をしていかなけ
ればと思っています。そして、これま
でたくさんの諸先生方、書友に支えら
れてきたことに、心から厚く御礼申し
上げます。

この度は栄えある書道芸術院展大賞
を賜り、誠に有難うございました。
辻元大雲理事長先生はじめ、選考に
あられた先生方には心から感謝申し
上げます。

先生方には今後とも一層のご指導を
賜ります様お願い申し上げます。

今回の受賞は小竹石雲先生、地元岡
山の諸先生方、諸先輩方の日頃から
厳しくも温かいご指導のおかげと、感
謝の気持ちで一杯です。

これらの書活動は迷ったり、立ち
止まる事もあると思いますが、この受
賞を糧としてゆっくりでも前進して参
りたいと思います。心に響いた言葉で
様々な表現をする為に、感性を豊かに
し、古典の勉強も大切にしたいと思
います。

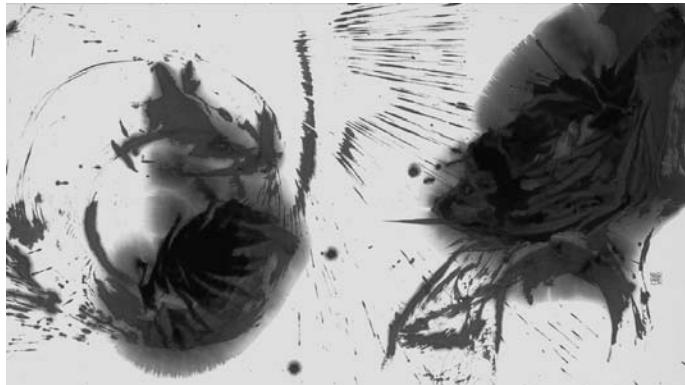
先生方には今後とも一層のご指導を
賜ります様お願い申し上げます。

「オリオン」



「吉語名句
二題」

書道芸術院準大賞



中塩 朱華

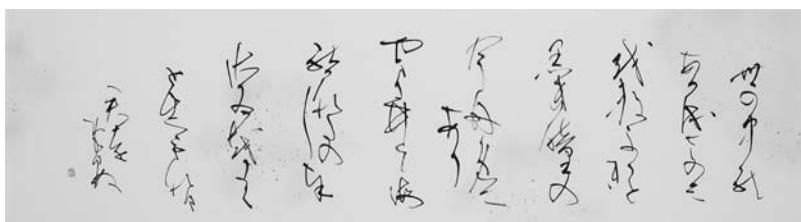


「豊」

西岡 悅子

「題玄武禪師墨壁」

何年頑霜願滿塵羅滄海未即而歸命
青天江海沐鶴飛空近鷗林波不尋
時忙得廬山跡真隨乘遠邇殘雲



「世の中の」

山田 靜枝

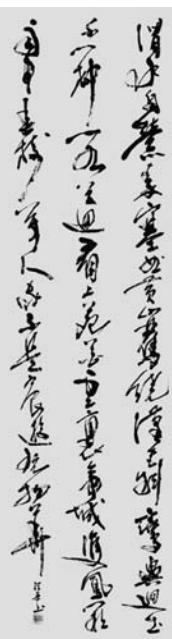
須田 瑞兆

白雪 紅梅賞



「尋隱者不遇」

阿部 青沙



「奉和聖製從蓬萊」

高野 桂華



「羣」

掛水 美翠



秋山 之扇

「萬葉集 菩提樹の歌」



「峨眉山月半輪秋」

田口 鈴水



「島秋人の歌より」

山内 松吾



石下 珠光

「散る日」



佐々木和堂

「中村稔の詩」



「巳」

大村 直子



「妙法蓮華經法師」

目良 珠山

特別研究部臨書課題

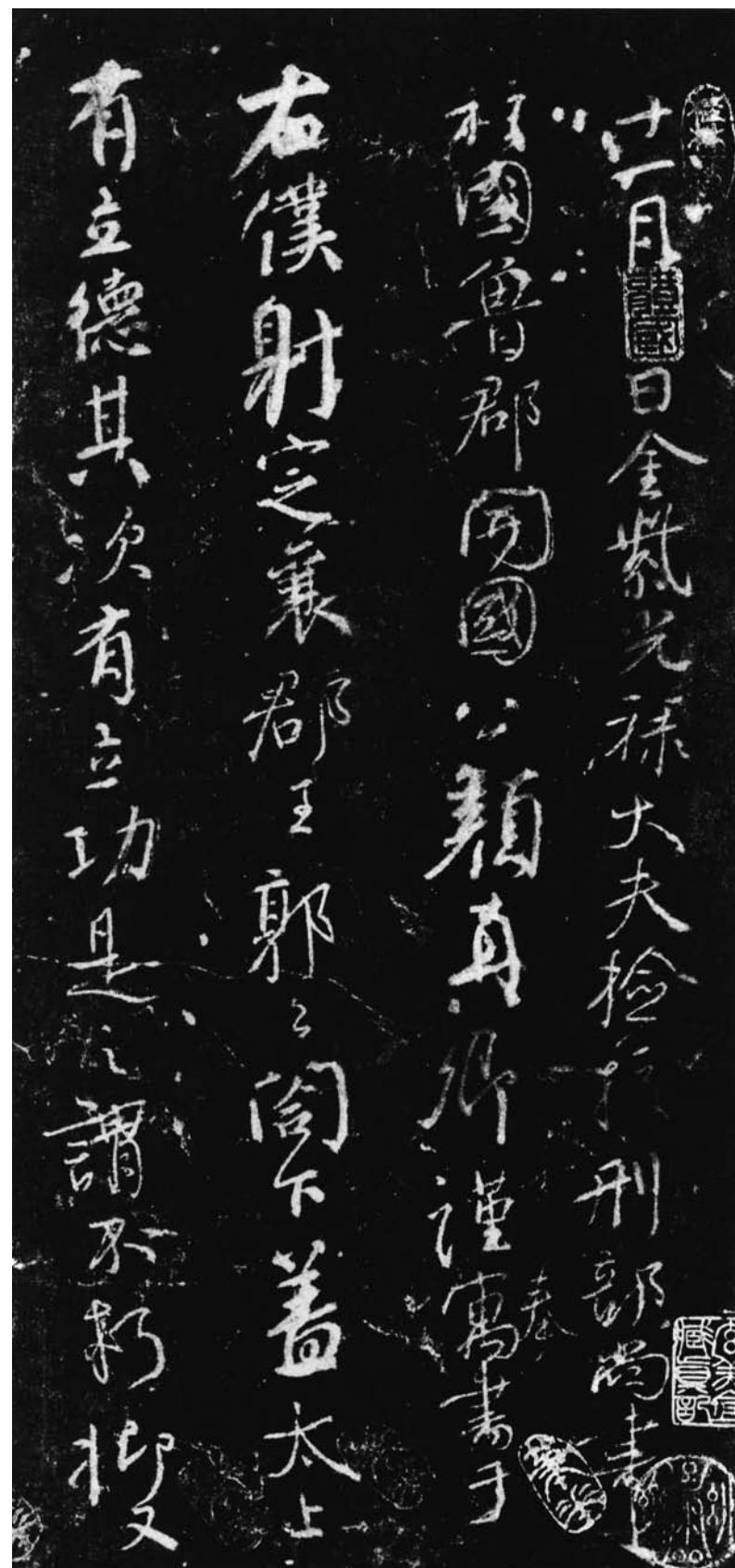
（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
（掲載部分以外は不可）

（解説） 唐の中頃、七〇九～七八五年に生きたとされる頭真卿の手によるもの。学徳豊かで、節義のために死を恐れない剛直の人であった。

文中に明示されているように、右僕射の官位にあった郭英乂が集会の坐位を乱したことに対して送った抗議文

の草稿である。古来、三稿（争座位稿・祭姪文稿・祭伯文稿）はもとより、すべての顔書の中でも最も殊勝として称賛され、王羲之の蘭亭序とも比肩されている。作意がなく自然で、ゆったりした動きの中に大小・抑揚などの変化を多彩に藏した行書の名品である。（編集部）



(80%縮小)

十一月 日。金紫光祿大夫・檢校・刑部尚書・上柱國・魯郡開國公・顏真卿。謹奉書于右僕射・定襄郡王・郭公閣下。蓋太上有立德。其次有立功。是謂不朽。抑又

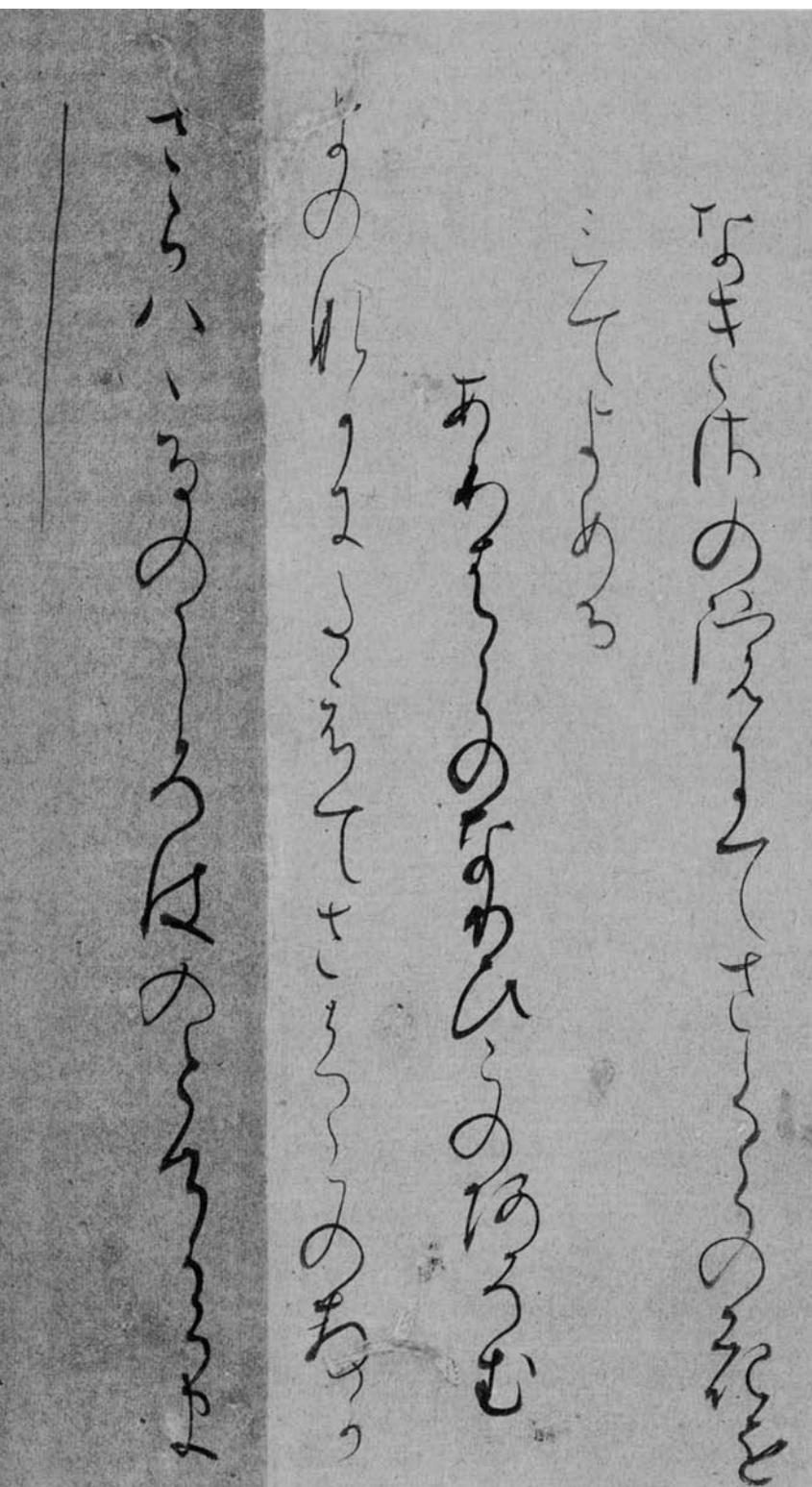
※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

みなぎさの院にてさくらの花を
みてよめる
ありはらのなりひらの阿曾
よのなかかにたえてさくらのさかか
ざらばゝるのこゝろはのどけから
まし

〈解説〉名古屋の素封家関戸家が所蔵していた、古今和歌集の書写本(零本=半端の本)27枚を、関戸家の名に因んで「関戸古今集」と呼んでいる。もとは、上下2冊の綴葉装の冊子本で、現存の歌数は約230首、料紙は鳥の子の染紙で、原装は、白、紫、藍、茶、黄、緑など各色とも濃淡一色を重ねる。筆者を藤原行成と伝えるが確証はなく、書風や料紙の趣向から推して高野切よりやや遅く、11世紀半ばすぎと推定されている。

(編集部)



=注= かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上

を書く。(全臨も可)

・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

・用紙は半紙普通判(料紙可)〈たて長に使用〉

別紙を裁断して貼付も可。

半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

習い方解説 (一)

小竹石雲

和風清穆
(清らかにやわらぐ春風)
(陶潛)

素朴でおだやかな表現を試みました。

そのため字形は偏平、藏鋒にし、筆先を大切に気持ちをこめてゆっ

たりと筆を運びました。
◎気をつけた点

・「和」の四画目と同じにならないように、「清」の八画目を長くして変化をつけてみました。

「風」は一画目と二画目の縦画に強弱の変化をつけました。
・リズム感のある動きが大切です。
表現過剰にならないように書いてみましょう。



和風清穆 よみ (和風清穆)

書体=自由

習い方解説(一)

東福青篋

春和景明
(春和景明)

春光のどかに景色は明るい。春

の時候のよいときという語。

今月より6ヶ月担当させて頂き

ます。今回は初唐の三大家の一人、

虞世南書「孔子廟堂碑」を参考に

致しました。特徴としては、品格

の高さと、内側にゆったりと余裕

があり、暢びやかな線質と向勢と

で温雅・稳健で豊かな大らかさが

窺えます。

起筆は余り強く打ち込んではい

ませんが、穂先は常に紙に強くあ

たって厳しく力感が溢れています。

転折は丸味をだしておだやかに、

運筆はほぼゅつたりとした速度で

す。

筆力を内に秘めながら「外柔内

剛」に。一点・一画を丁寧に書き

重ねることが大切だと思います。

青篋書

かな規定 初段以上【五月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説(一)

大辻 多希子

人はいさ心もしらずふるさとは
花そむかしの香にほひける

(古今和歌集)

4月号より6ヶ月間担当します。
私なりのかな作品について述べた
いと思います。

作品を創作する基本として、初
心者は、古筆にある歌一首を四行
に書いてみる事から始めるものか
な特徴を知る一步になると思
います。臨書の学び方としては、字
の大小、長短、連綿、太細、行間
の広狭、流れ、濃淡に至るまで形
式的内容を把握します。筆力や筆
勢にまで微細な神経を使い模倣す
るのです。掲載の作品は高野切第
一種に登場する歌です。字組みを
少々換ました。読みやすい書き方
です。慣れている方は漢字や変体
かなを多用し独自の作品を試みま
しょう。

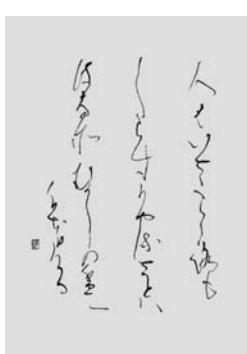


四

創作

よみ方 ひとはいさこころもしらずふるさとは(ハ)

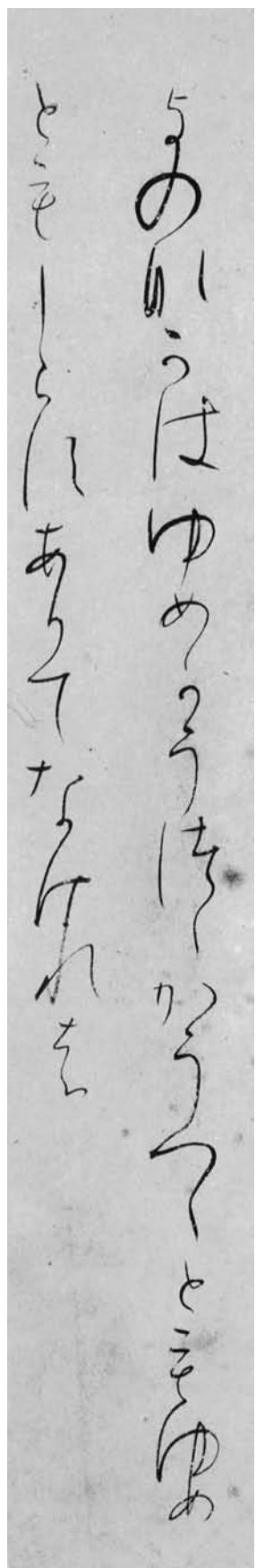
は(者)なぞむか(可)しのかに(イ)に(尔)ほ(本)ひ(日)ける



かな規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 よ(与)のな(那)か(可)はゆめか(可)う(徒)かう(徒)とも(モ)ゆめ
と(モ)しらず(須)ありてなければ(者)

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

習い方解説 (一)

木 村 東 舟

白雲の立田の山の八重桜
いづれを花とわきて折りけむ

(新古今和歌集)



よみ方 白雲の立田の(農)やま(万)の八重(さくら)
いつ(徒)れを花とわきてを越(は)り(利)け(介)む(无)

創作

贈られた八重桜を賞する心を歌
っています。基本的な二行書きで
す。作品が重くなり過ぎぬよう、
墨量・筆圧等調整して、全体を通
してリズム感のある作品にしたい
ものです。行と行とで、隣同志の
文字が互いに勝ち合わぬよう、う
まく組み合わせて、独創的な作品
に仕上げて下さい。
「わきて」は、見わけての意。

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【五月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

村山元信選書

習い方解説（一）

村山元信

14

勸君更尽一杯酒
西出陽關無故人

玄伸書

勸君更盡一杯酒 西出陽關無故人
(君に勧む更に尽くせ一杯の酒/西のかた陽闊を出づれば故人無からん)

(王維)

書体=自由

山河四望春

龍雲書

(駱賀王)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田龍雲選書

習い方解説（一）

前田龍雲

4月ということで新たに条幅を書かれる方もおられることでようから、初心者でも比較的書きやすい、王羲之風の行書を参考手本にしてみました。これを機会に是非条幅の部にもチャレンジしていただけたらと思います。

意味は「山も河も四方どこを眺めても一面春である」です。ゆつたり穏やかな気持ちになつて書いてみてください。

今回から担当します。4月は別れ、そして出会いの季節。有名な唐・王維の七言絶句から一句を選びました。参考例は楷書表現にしましたが、書体は自由です。また、高校の漢文の教科書は常用漢字体ですから新字体で書いてみました。が、例外もありますが概して旧字体の方が作品を構成させやすいことが多いと思います。ご研究を。

習い方解説 (一)

川島舟錦

春の小川はさわやか
岸のすぐれやれんげの花に
姿やさしく色美しく咲いて
うねとやさやきながら
、
書

「姿やさしく色美しく咲いているね」とささやきながら小川が流れている、というのどかであたたかい春の風景を想像するとほっとします。時間におわれる日々から、ほんのひとときタイムスリップして、ペンで遊んでみましょう。

ペンは手軽。デスクペンでよし。万年筆もよし。外国製ペンは、横文字用にできていて柔らかすぎるのが難点。小筆とボールペンの間にある日本製ペンの弾力をきかせて、リズムにのって練習を重ねましょう。

「毎日、素敵なことば、やさしいことばの飛び交うクラスにしようね。」と、中学生漢字かな交じり文の題材に使ったことがあります。「春の小川」はだれもが口ずさんだ懐しい童謡です。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

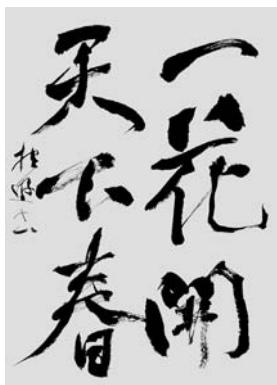
書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品
各部総評 NO.622

漢字部 師範 音喜多抱遊
何紹基を学んだ人か。根拠のある創作態度がよい。左右のあき過ぎが何とも残念。配字にも留意を。(◎漢字部総評 参考手本)参考に淡墨を試み、新しい境地を得た作品に出会いました。(下級「点」の難しさに留意を。)(翠風評)



漢字条幅部 師範 山田 琴敷
濃墨、柔毫筆によるねばりある線質を生かし、潤滑の変化を巧みにとり入れた作。気力充実を買つ。(◎漢字条幅部総評 上級者隸書表現が多かったが形を追うのみで線質の弱さが目立つ。下級を含め線の鍛錬を怠りなく。)(大雲評)

現代詩文書部 特選 板橋 雅邦
円弧を描く作品構成を、しっかりと字形と線質で表現し、境地の高い作となつた。潤滑、墨量とも良い。(◎現代詩文書部総評 鍛えられた線質は、作品に力と輝きを与える。線を大切に。)(鄭雲評)

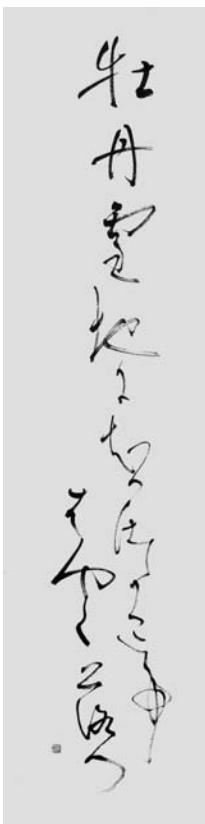


前衛書部 特選 下畠 紅蕙
中央の余白を読み取るように仕向けた運筆。墨色で筆の主張を抑ええたことが大きな作品に導く。(◎前衛書部総評 出品全体に強い意欲を感じた。選考の厳しさに直面したが、共に前進を。)(慧香評)

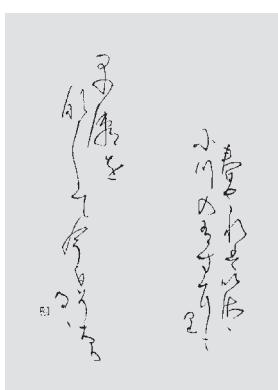


かな条幅部 師範 武藤 房枝
かな條幅部の無駄のない線が淀みなく、高度に洗練されていて美しい。リズム感の良さは深く心に響きます。

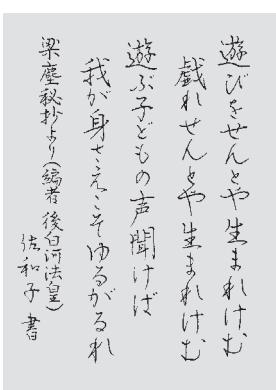
(◎かな条幅部総評 快く表現された作多く、楽しく拝見。伸びやかさは評価するが、かなは特に抒情性も大事に制作したい。(明子評))



かな部 師範 阿久澤隆華
少々墨は濃いが、転折の筆遣いを消化した流れは生彩に富み切れた。バランスの把握も大切。早の小さくまとまりすぎた作品が多かつた。(◎かな部総評 構成にとらわれて草書に誤字あり残念。)(洋子評)



ペン字部 師範 沖 佐和子
一点一画に変化があり氣字大で連綿を生かして流れを求める落款まで布置が見事な統一感ある作。(◎ペン字部総評 出だし二行をいかに表現するかで全体の雰囲気が変わる。限られた紙面にどう布置するかが課題である。)(和楓評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

現代詩文書 (翠柳)
鈴木翠夢



鈴木翠夢書

180×46cm

「大和克子歌」

◆紙一杯に打ちつけた気迫。見る私にとってハッとする強さを受けた。紙の長さが一寸足りなかつた。

(倫子評)

◆超長鋒による回転を主体として切れのよい線でまとめ上げている。上部下部の小さな固まり一考を。

(蒼玄評)

◆思いを極めて、ふっと無我になつた一瞬の表現かと感じさせられます。動きの大きい立体感が爽やか。

(明子評)

◆筆の開閉をうまく利用し流麗な雰囲気に仕上げた。明るい構成も好感が持てる。墨色は要一考。

(大雲評)



180×60cm

前衛書 (白珠) 相内珠莉 「きらめき」

臨書 (A.I.) 藤村昌子

「一条撰政集」

46×180cm

藤村昌子臨

◆丁寧な仕上りには毎回頭が下がります。小さな文字の中の大きな動きを、更によく見て学んで下さい。

◆繊細な中にも大胆な運筆を交え生き生きとした臨書となつた。最後まで一貫した気分で書くとなお佳。

(大雲評)

◆強弱のついた筆の使い方見事です。自然な墨だまりで表現。細線に変化がつき全体を一層引き立てる。

(倫子評)

◆細やかな流れをよく表現して最後までリズムを崩さずに仕上げている。臨書であれば“臨”と入れるべきか。

(蒼玄評)



◆リズミカルでうきうきした朝の情景が浮かぶよう。後半やや単調になつたが文字の中心を捉え構成良。

(大雲評)

◆ゆったりとした運筆の中にはスピードの変化が見られ墨色に面白味が表現されて全体に動きを感じる。

(倫子評)

◆女性の心を穏やかな筆致に托されて見飽きぬ作となりました。雰囲気は書に最も大切な要素でしょう。

(明子評)

◆とつとつと文字を並べて語りかけて来るような作品。二行目カタカナは見せ場としての変化がほしかった。

(蒼玄評)

現代詩文書

西川藤象

「浅井民子詩」

(もく)



90×120cm

◆美しい句を力強く描いて、静かに迫ってきます。四文字三行が一切、気にならない表現力はすごい。

(明子評)
まさに鳥が羽ばたいて飛ぶごとく左右への広がりを感じさせる。若干单调なりズムになったよう。

(大雲評)

◆筆先きの変化すばらしい。強弱の呼吸を全体の動きの流れに託して一気に表現したでは。

(倫子評)

◆漢字かなのバランス良く大線の角度が一定になつたのは少々気にかかる。(蒼玄評)

小濃淡も巧みである。右上りの線の角度が一定になつたのは少々気にかかる。(蒼玄評)

臨書 (墨宣) 松下紅月 「顔氏家廟碑」

松下紅月臨

135×35cm

漢字 (宛書)

武山櫻子

「深執忠…」

創作の部(50点)

漢字 - 16点
かな - 3点
現代 - 18点
篆刻 - 0点
前衛 - 13点
かな - 4点
臨書の部(29点)



180×60cm

漢字 (宛書)

武山櫻子

「深執忠…」

創作の部(50点)

漢字 - 25点
かな - 4点
篆刻 - 0点
前衛 - 13点
かな - 3点
現代 - 18点
臨書の部(29点)

総出品点数
79点

〈特選候補者〉

(創作の部)

華祥 安藤 華祥

「かな」

書泉 善養寺紅風

「現代詩」

八戸 市川 紫泉

翠吟 鈴木 承琳

千葉 東原 扇桜

「前衛」

青蓮 大町 菜円

玄象 大鹿 洋江

「臨書の部」

扇溪 岩崎 陽光

「漢字」

陽陽 岩崎 陽光

うる 岩田 誠華

墨縁 田中 扇溪

「かな」

阿波 鈴木 英晴

有祠堂之頃皆所以發揮
祖德敷演家聲故君

より其

◆じっくりと腰を据えて書かれた。墨の濃さのせいか少し線が浅いのが惜しまれる。二行目ほどよい。

(大雲評)

◆一行めの出来映えに比べ、二行めは少し疲れが感じられます。しかし、濃密な線は力強く美しい。

(明子評)

◆顔真卿の持つ重厚さと筆の開閉をよくとらえている。作品として見ると濃淡潤滑がほしい。

(蒼玄評)

◆一字一字よく観察して書いているが字のつながりがこの楷書の中にもある筈、線も大切だが空間も。

(倫子評)

創作の部(50点)	漢字 - 16点 かな - 3点 現代 - 18点 篆刻 - 0点 前衛 - 13点 かな - 3点 現代 - 18点 臨書の部(29点)
漢字 - 25点 かな - 4点 篆刻 - 0点 前衛 - 13点 かな - 3点 現代 - 18点 臨書の部(29点)	漢字 - 16点 かな - 3点 現代 - 18点 篆刻 - 0点 前衛 - 13点 かな - 3点 現代 - 18点 臨書の部(29点)

漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



久保智子

漢字研究部 特選 久保 智子
◎漢字研究部總評
まずは顔法の理解が必要。独特の線のゆがみ
顔法の用筆を正しくとらえ、筆の弾力を生かしながら厚みのある線を見事に表現した快作となった。「堂」と「皆」の二文字がやや大きすぎたため、半紙にまとめる上では少し残念な点もあるが、臨書の姿勢が他の見本とするに十分。

漢字研究部 特選 久保 智子
は用筆法からくるもので、決してわざと曲げたものではありません。既に顔法を理解している人は、これを観念的に再現するだけでは、顔法の特徴を表現しやすい「建中帖」のほうにも神経を用いてほしい。中位以上の方でも、く、顔氏家廟碑と他の碑や帖との微妙な違いに近い臨書となつたものもかなり見受けられました。「家廟碑」のほうは一画一画がより沈んでおり、骨力が強いのです。



綾朋翠正さ郁
く子美綾子ら子

邑叙良紅谷翠
里孝子雨麗徑

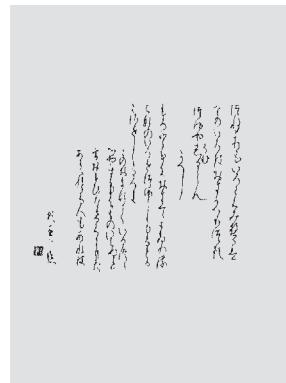
光翠杏香柳芝
子江邑月芳香

谷颯満京幸白
涼雪翠子泉麗

かな研究部
(一条摺政集)

選評 善養寺 紅風

今月のホープ作品



小川 彩香

◎かな研究部総評

古筆の特徴をよく理解し、運筆や、字形の大小にかかわることなく、自由に旋回するリズムに乗って書かれ、気品のある見事な作品になりました。

総体的に誤字も少なく、良く書かれていました。単体は手本に忠実ですが、連綿が増すにつれて、線質、字形のくずれてしまう残念な作品がありました。

かな研究部 特選 小川 彩香

令翠美知子陽子 寿飛雅子龍子 智由紀広江雲 寿咏良子艸泉

蘭竹こ高清陽八井月賀戸 高大玉東椿生有京豈鬼玉高上こ竜う高艸紅清大A樹毫玉
鼎扇だ井月賀戸 井雲松向翠大秋橋田高松崎泉こ泉る崎玄嵩月雲 I 原泉松

川河大櫻江岩市崎岡石田崎川作高大玉東椿生有京豈鬼玉高上こ竜う高艸紅清大A樹毫玉
松河塗菅安北石吉小神田小山加後進根中鈴大堀伊庄後小
田合澤野藤又川田野中峰縣藤津澤木和切藤司藤川

優星星和茂陽紫子扇祥子夫光泉 松河塗菅安北石吉小神田小山加後進根中鈴大堀伊庄後小
代和美静代春洋祐エド典耶加令翠知寿飛雅智紀幸壽咏良彩

子敬紅代子暎子華子衣子陽子子弘江雲子艸泉香

高陵佳 東昌玉千調硯幕高A椿千前東玉高小秀翠幕紅昌正竹大高や樹大枝大正福
実苑川葉布水張崎 I 翠葉橋向松崎汀水柳張瑤苑華美雲崎ま原阪苑雲華阪山

會木裕 吉吉谷村武宮松藤平平春畠長根永寺近高須佐佐櫻驚舞齋近小小木高岸川
田知田藤澤島浦村山山山谷本瀬澤池橋田藤藤林沼武原本川

勇介 真翠美笑蕙草翠玉昌つ彩勝芝千雅荳悟柳賢香初麻智美惠つ淑萩初玄輝萩綾
理綾子華陸秋舟江子華美香峰子汀子芳雲舟香美舟梢え子江風城子西美

大京秀千 こ樹東竹千竜澄石千前幕洞玉正一大書や竜澄頼松昌澄蒼樹京翠清高彩艸渡如樹玉高A誠
阪橋葉入 大原伯扇葉泉春習葉橋張書松川華董阪泉ま泉春綠村苑春原橋吟月泉崎

天阿阿足 達 吉遊山山森宮松別林濱橋野永中富都田高新区志鹿坂齋祐近近小吳北岸龜鎌金奥荻大梅生鶴今猪井伊磯五青
羽部部立 野佐本村口田内丸重府 田本中井村田丸玉橋行水田巻藤田野藤林 村田井田子山原沢山方澤閥又上東貝十木

多 愚春雅万 み 彩一真炎鉛龍幸愛翠信玉竹紅喜宏一萩ど哲雅滿起志麗翠綾遊松閑嘉豊欣東紫壽蘆翠玉淑久美琴梨理英京清佳藤子清悠秀

裕明冬 竹 采榮紀秀風博平石景子華雪霞子枝翠彩り子泉子子江苑香子山春窓江美子子風藏城峰霞江子子舟霞扇二子耀米漣

八雲 た生八硯春蕙稻大蒼千た大う生幕 広竜華誉大泉伏春登筑椿こた昭石澄秀高澄石正N誠華生正誠紳正大澄も生艸
か大街水汀書毛阪陽葉か雲る大張 島泉祥田波阪会春桜翠だか微習春明真春習華H和祥大華と玄華阪春く大玄

七塩猿佐佐佐坂齊後込河河黒木君北川川加加小小小小小冲小大遠梅梅宇内岩岩井大伊伊市板石石石石生飯新新新
條崎渡渡藤々々々本藤藤山野柳村島村本本藤藤野野高能 川西藤原津野田瀬崎上野飼藤藤川垣橋坂川駒萬井井井

木木木 由 美 裕明冬 竹 采榮紀秀風博平石景子華雪霞子枝翠彩り子泉子子江苑香子山春窓江美子子風藏城峰霞江子子舟霞扇二子耀米漣

大高北も竹蓮やもあ紅生玉椿 墨皓大正長高秀澄大上秀は椿大詢調高泉上千秀春大泉秀泉春富幸澄大章正春光千硯八
遷阪陵陸く美紅まくか苑大川翠 宣映阪華月陵水春阪か泉水せ翠阪局布陵会泉葉水汀雲会歎会汀貴局春阪泉華汀昭葉水生

外146名吉横遊山森本茂宮湊三丸真松松松増堀福深廣浜濱花長橋橋野丹永中戸富渡積辻筑田辰淹高高泉神下嶋渋柴篠田惠美子
名波田種山佐口田吉木下 上尾庭田佐岡田井島堀地野田里谷本本村沢羽田尾村澤子田 井野本田橋橋司水保田谷

名羅十 妃タ 和 美 理 裕明冬 竹 采榮紀秀風博平石景子華雪霞子枝翠彩り子泉子子江苑香子山春窓江美子子風藏城峰霞江子子舟霞扇二子耀米漣

名拳略 玉子玉舟雅子谷香蘭翠子子子ミ華鈴子子子洗幸寔一子子和子詢雅子子舟子子雲子子三子子風苑桜宝子子香華泉子